



3. 仮説

3-1. 今回用いた先行研究

生活満足度判定におけるポジティブおよび ネガティブな感情の役割 —国を越えて—

著者: Peter Kuppens、Anu Realo、Ed Diener
発行年: 2008年

(引用: <https://scottbarrykaufman.com/wp-content/uploads/2019/01/Kuppens-et-al.-2008.pdf>)

3-2 .用いた尺度

人生満足度尺度(SWLS)をウェルビーイングを測る尺度として用いる

理由

- ①心理学の教授であるEd Dienerらが開発
→人生満足度尺度について、他の論文でも研究している
- ②期間をあけて実施した時の再現性が高い
→4年後に行っても、同じような結果が得られた
- ③多くの研究で用いられている
→1993年に論文を発表してから多くの研究で用いられている

3-3. 先行研究より

目的

- ・ポジティブな感情やネガティブな感情を感じる頻度とその人にとっての「良い人生」がどのように人生満足度尺度に関係しているか

調査内容

- ・46カ国、8,557人を対象に、各国の言語に翻訳して行った

調査結果

- ・文化が人生満足度尺度に大きな影響を与えることが分かった
- ・「個人主義」か「集団主義」、「生存価値」か「自己表現価値」かによって文化に違いが出て、人生満足度尺度にも差が出る

3-4. 先行研究から明確になったこと

①「個人主義」「集団主義」

「**集団主義**」よりも「**個人主義**」の方が人生満足度尺度が高い

理由

- ・「**個人主義**」の社会では、良い気分である事が理想像
→否定的感情を排除しようと懸命になる＝マイナスの感情を感じる頻度が少ない
- ・「**集団主義**」の社会では、対人関係の調和が必要
→否定的感情を経験することも大切＝マイナスの感情を感じる頻度が多い

3-5. 先行研究から明確になったこと

②「生存価値」「自己表現価値」

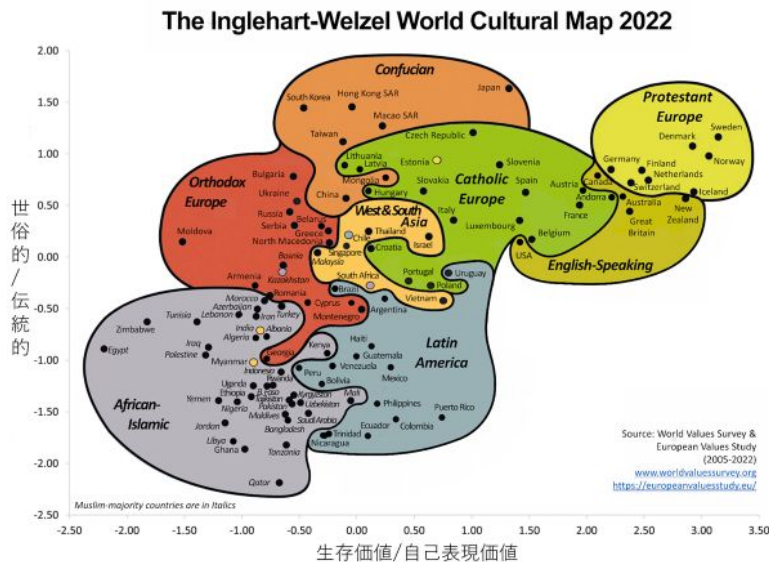
「生存価値」よりも、「自己表現価値」に重点を置く方が
人生満足度尺度が高い

理由

- ・「自己表現価値」を重視する国は、経済的に潤っている傾向がある
- ・あくまでも傾向であり「経済状況≠人生満足度尺度」
- ・経済状況が良好でも「自己表現価値」の低い国もある

3-6.今回用いる指標

インゲルハート・ヴィルゼル文化地図

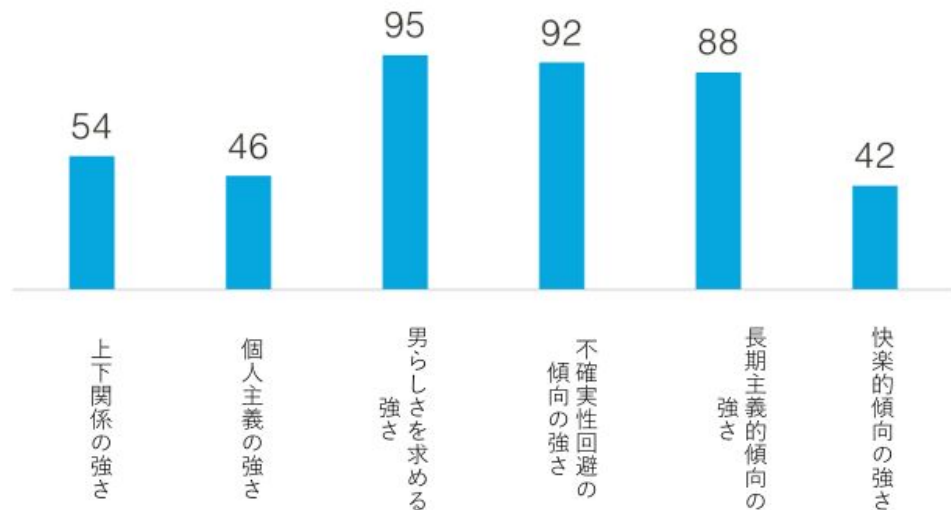


- ・文化的な価値観を測る指標
- ・横軸で各国の「生存価値」と「自己表現価値」が分かる
- ・縦軸は「世代的」か「伝統的」かを表している
- ・先行研究でも用いられていたため使用

(引用: <https://www.worldvaluessurvey.org/WVSNewsShow.jsp?ID=428>)

3-7.今回用いる指標

ホフステッド指数



- ・国民性を測る指標
- ・「個人主義」か「集団主義」かを読み取れる
- ・6つの項目で構成されている
- ・先行研究でも用いられていたため使用

(引用: [国別比較 - ホフステッドインサイト \(hofstede-insights.com\)](http://hofstede-insights.com))

3-8.結果の予測

表題:日本の大学に通う学生は人生に満足しているのか
→**対象国と比較して、日本の人生満足度尺度は高くなる**

理由

- ①対象国の中では、個人主義傾向にあるから
- ②対象国の中では、自己表現価値が高いから
- ③英語が理解出来る学生を対象としているから言語による誤差がうまれない(①と②の予想が正確に結果へと反映される)